

特 許 協 力 条 約

PCT

特許性に関する国際予備報告 (特許協力条約第二章)

(法第12条、法施行規則第56条)
[PCT 36条及びPCT規則70]

REC'D 14 APR 2005

WIPO

PCT

出願人又は代理人 の書類記号 PC-8985	今後の手続きについては、様式PCT/IPEA/416を参照すること。	
国際出願番号 PCT/JPO3/16476	国際出願日 (日.月.年) 22.12.2003	優先日 (日.月.年) 27.12.2002
国際特許分類 (IPC) Int.Cl. B32B5/18 B32B27/40 C08G18/10		
出願人 (氏名又は名称) 株式会社 加平		

1. この報告書は、PCT 35条に基づきこの国際予備審査機関で作成された国際予備審査報告である。
法施行規則第57条 (PCT 36条) の規定に従い送付する。

2. この国際予備審査報告は、この表紙を含めて全部で 3 ページからなる。

3. この報告には次の附属物件も添付されている。

a ☒ 附属書類は全部で 4 ページである。

☒ 補正されて、この報告の基礎とされた及び/又はこの国際予備審査機関が認めた訂正を含む明細書、請求の範囲及び/又は図面の用紙 (PCT規則70.16及び実施細則第607号参照)

☐ 第I欄4. 及び補充欄に示したように、出願時における国際出願の開示の範囲を超えた補正を含むものとこの国際予備審査機関が認定した差替用紙

b ☐ 電子媒体は全部で (電子媒体の種類、数を示す)。
配列表に関する補充欄に示すように、コンピュータ読み取り可能な形式による配列表又は配列表に関連するテーブルを含む。 (実施細則第802号参照)

4. この国際予備審査報告は、次の内容を含む。

- ☒ 第I欄 国際予備審査報告の基礎
- ☐ 第II欄 優先権
- ☐ 第III欄 新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての国際予備審査報告の不作成
- ☐ 第IV欄 発明の単一性の欠如
- ☒ 第V欄 PCT 35条(2)に規定する新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての見解、それを裏付けるための文献及び説明
- ☐ 第VI欄 ある種の引用文献
- ☐ 第VII欄 国際出願の不備
- ☐ 第VIII欄 国際出願に対する意見

国際予備審査の請求書を受理した日 16.07.2004	国際予備審査報告を作成した日 22.03.2005	
名称及びあて先 日本国特許庁 (IPEA/JP) 郵便番号100-8915 東京都千代田区霞が関三丁目4番3号	特許庁審査官 (権限のある職員) 川端 康之 電話番号 03-3581-1101 内線 3430	4S 9156

様式PCT/IPEA/409 (表紙) (2004年1月)

第I欄 報告の基礎

1. この国際予備審査報告は、下記に示す場合を除くほか、国際出願の言語を基礎とした。

☐ この報告は、_____ 語による翻訳文を基礎とした。
それは、次の目的で提出された翻訳文の言語である。

- ☐ PCT規則12.3及び23.1(b)にいう国際調査
☐ PCT規則12.4にいう国際公開
☐ PCT規則55.2又は55.3にいう国際予備審査

2. この報告は下記の出願書類を基礎とした。(法第6条(PCT14条)の規定に基づく命令に応答するために提出された差替え用紙は、この報告において「出願時」とし、この報告に添付していない。)

☐ 出願時の国際出願書類

☒ 明細書

第 1-45 _____ ページ、 出願時に提出されたもの
第 _____ ページ*、 _____ 付で国際予備審査機関が受理したもの
第 _____ ページ*、 _____ 付で国際予備審査機関が受理したもの

☒ 請求の範囲

第 5-7 _____ 項、 出願時に提出されたもの
第 1-4、8-13 _____ 項*、 PCT19条の規定に基づき補正されたもの
第 _____ 項*、 _____ 付で国際予備審査機関が受理したもの
第 _____ 項*、 _____ 付で国際予備審査機関が受理したもの

☒ 図面

第 1-15 _____ 図、 出願時に提出されたもの
第 _____ ページ/図*、 _____ 付で国際予備審査機関が受理したもの
第 _____ ページ/図*、 _____ 付で国際予備審査機関が受理したもの

☐ 配列表又は関連するテーブル

配列表に関する補充欄を参照すること。

3. ☒ 補正により、下記の書類が削除された。

☐ 明細書 第 _____ ページ
☒ 請求の範囲 第 14, 15 _____ 項
☐ 図面 第 _____ ページ/図
☐ 配列表 (具体的に記載すること) _____
☐ 配列表に関連するテーブル (具体的に記載すること) _____

4. ☐ この報告は、補充欄に示したように、この報告に添付されかつ以下に示した補正が出願時における開示の範囲を超えてされたものと認められるので、その補正がされなかったものとして作成した。(PCT規則70.2(c))

☐ 明細書 第 _____ ページ
☐ 請求の範囲 第 _____ 項
☐ 図面 第 _____ ページ/図
☐ 配列表 (具体的に記載すること) _____
☐ 配列表に関連するテーブル (具体的に記載すること) _____

* 4. に該当する場合、その用紙に "superseded" と記入されることがある。

第V欄 新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての法第12条(PCT35条(2))に定める見解、
それを裏付ける文献及び説明

1. 見解

新規性(N)

請求の範囲 1-13

請求の範囲

有
無

進歩性(IS)

請求の範囲 1-13

請求の範囲

有
無

産業上の利用可能性(IA)

請求の範囲 1-13

請求の範囲

有
無

2. 文献及び説明(PCT規則70.7)

請求の範囲1-13に係る発明は、国際調査報告に列举されたいずれの文献にも記載されておらず、また、当業者にとって自明でもない。

4650

請 求 の 範 囲

1. (補正後) 加熱溶融させた、1,000～10,000の範囲の数平均分子量(Mn)を有し、分子末端にイソシアネート基を有するホットメルトウレタンプレポリマー(A)と、ジオール(B)とを混合させて得られた液状混合物を基材上にシート状に塗布し、得られたシート状の前記液状混合物に水蒸気を接触させて前記液状混合物を水発泡させるポリウレタン発泡体シートの製造方法であって、

前記ホットメルトウレタンプレポリマー(A)のイソシアネート基当量に対する、前記ジオール(B)の活性水素原子含有基当量の比[イソシアネート基当量/活性水素原子含有基当量]が、1.5～20.0の範囲であることを特徴とするポリウレタン発泡体シートの製造方法。

2. (補正後) 加熱溶融させた、1,000～10,000の範囲の数平均分子量(Mn)を有し、分子末端にイソシアネート基を有するホットメルトウレタンプレポリマー(A)と、ジオール(B)とを混合させて得られた液状混合物を、第一の離型性基材と第二の離型性基材の間に導入して連続的にシート状物を形成し、前記離型性基材の片面又は両面に水蒸気を接触させて前記第一の離型性基材と前記第二の離型性基材に挟まれた前記シート状物を水発泡させるポリウレタン発泡体シートの製造方法であって、

前記ホットメルトウレタンプレポリマー(A)のイソシアネート基当量に対する、前記ジオール(B)の活性水素原子含有基当量の比[イソシアネート基当量/活性水素原子含有基当量]が、1.5～20.0の範囲であることを特徴とするポリウレタン発泡体シートの製造方法。

3. (補正後) 加熱溶融させた、1,000～10,000の範囲の数平均分子量(Mn)を有し、分子末端にイソシアネート基を有するホットメルトウレタンプレポリマー(A)と、ジオール(B)とを混合させて得られた液状混合物を、第一の離型性基材と第二の離型性基材の間に導入して連続的にシート状物を形成

し、前記第一の離型性基材と前記第二の離型性基材のいずれか一方を剥離して、前記シート状物に直接水蒸気を接触させて前記シート状物を水発泡させるポリウレタン発泡体シートの製造方法であって、

5 前記ホットメルトウレタンプレポリマー (A) のイソシアネート基当量に対する、前記ジオール (B) の活性水素原子含有基当量の比[イソシアネート基当量/活性水素原子含有基当量]が、1.5～20.0の範囲であることを特徴とするポリウレタン発泡体シートの製造方法。

10 4. (補正後) 前記液状混合物が、前記加熱溶融させたホットメルトウレタンプレポリマー (A)、前記ジオール (B) と、さらにウレタン化触媒 (C) を混合させて得られたものである請求項1ないし3の何れか一項に記載のポリウレタン発泡体シートの製造方法。

15 5. 前記ホットメルトウレタンプレポリマー (A) が、加水分解性アルコキシシリル基をも有するホットメルトウレタンプレポリマー (a-2) である、請求項1ないし3の何れか一項に記載のポリウレタン発泡体シートの製造方法。

20 6. 前記ホットメルトウレタンプレポリマー (A) におけるイソシアネート基含有量が0.5～10.0重量%の範囲である、請求項1ないし3の何れか一項に記載のポリウレタン発泡体シートの製造方法。

25 7. 前記ウレタンプレポリマー (A) が、100～100,000 mPa・sの範囲のコーンプレート粘度計にて測定した125℃における溶融粘度を有する、請求項1ないし3の何れか一項に記載のポリウレタン発泡体シートの製造方法。

8. (補正後) 加熱溶融させた、1,000～10,000の範囲の数平均分子量(Mn)を有し、分子末端にイソシアネート基を有するホットメルトウレタンプレポリマー (A) と、ジオール (B) とを混合させて得られた液状混合物を基材

上にシート状に塗布し、得られたシート状の前記液状混合物に水蒸気を接触させて前記液状混合物を水発泡させて得られたポリウレタン発泡体シートに、第三の基材を貼り合わせる積層体シートの製造方法であって、

5 前記ホットメルトルェタンプレポリマー (A) のイソシアネート基当量に対する、前記ジオール (B) の活性水素原子含有基当量の比[イソシアネート基当量/活性水素原子含有基当量]が、1.5～20.0の範囲であることを特徴とする積層体シートの製造方法。

9. (補正後) 加熱溶解させた、1,000～10,000の範囲の数平均分子量
10 (Mn) を有し、分子末端にイソシアネート基を有するホットメルトルェタンプレポリマー (A) と、ジオール (B) とを混合させて得られた液状混合物を基材上にシート状に塗布し、得られたシート状の前記液状混合物に第三の基材を貼り合わせて得られた積層体に、水蒸気を接触させて前記液状混合物を水発泡させる積層体シートの製造方法であって、

15 前記ホットメルトルェタンプレポリマー (A) のイソシアネート基当量に対する、前記ジオール (B) の活性水素原子含有基当量の比[イソシアネート基当量/活性水素原子含有基当量]が、1.5～20.0の範囲であることを特徴とする積層体シートの製造方法。

20 10. (補正後) 加熱溶解させた、1,000～10,000の範囲の数平均分子量 (Mn) を有し、分子末端にイソシアネート基を有するホットメルトルェタンプレポリマー (A) と、ジオール (B) とを混合させて得られた液状混合物を、第一の離型性基材と第二の離型性基材の間に導入して連続的にシート状物を形成し、前記第一の離型性基材と前記第二の離型性基材のいずれか一方を剥離して、
25 前記シート状物の剥離面及び/又は剥離されずに残っている前記第一又は第二の離型性基材に水蒸気を接触させて、前記シート状物を水発泡させて得られたポリウレタン発泡体シートの前記第一又は第二の離型性基材を剥離した面に、第三の基材を貼り合わせる積層体シートの製造方法であって、

前記ホットメルトルェタンプレポリマー (A) のイソシアネート基当量に対す

る、前記ジオール（B）の活性水素原子含有基当量の比[イソシアネート基当量／活性水素原子含有基当量]が、1.5～20.0の範囲であることを特徴とする積層体シートの製造方法。

- 5 11.（補正後）前記液状混合物が、前記加熱溶融させたホットメルトウレタンプレポリマー（A）、前記ジオール（B）と、さらにウレタン化触媒（C）を混合させて得られたものである請求項8ないし10の何れか一項に記載の積層体シートの製造方法。
- 10 12.（補正後）前記ホットメルトウレタンプレポリマー（A）が、加水分解性アルコキシシリル基をも有するホットメルトウレタンプレポリマー（a-2）である、請求項8ないし10の何れか一項に記載の積層体シートの製造方法。
- 15 13.（補正後）前記ホットメルトウレタンプレポリマー（A）におけるイソシアネート基含有量が0.5～10.0重量%の範囲である、請求項8ないし10の何れか一項に記載の積層体シートの製造方法。
- 14.（削除）
- 20 15.（削除）